

会議名称： 令和２年度９月期古賀市社会教育委員の会議

日 時： 令和２年９月３０日（水） １８時３０分～２０時００分

場 所： リーバスプラザこが・歴史資料館 中会議室

主な議題：（１）委員の活動発表、意見交換

（２）令和２年度社会教育研修について

傍聴者数：なし

出席者：松本議長、角森副議長、平島委員、國友委員、井浦委員、村山委員、橋爪委員、
（以上委員７名）

青谷部長、中村課長、村上参事補佐、小嶋、渡邊

欠席者：秋山委員、丸井委員

事務局：生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：レジュメ、各委員からの案内チラシ

会議内容：以下のとおり

松本議長：

皆さんこんばんは。ただいまから９月期の会議を始めます。部長には最後にご挨拶をいただきたいと思います。

早速、角森副議長から活動発表をお願いします。

角森副議長：

はい。

（角森副議長 活動発表）

松本議長：

ありがとうございました。公衆衛生看護と反対の意味や違う意味の言葉はあるのでしょうか？

角森副議長：

普通は臨床看護と公衆衛生看護と言います。臨床看護は病院での看護、もう一つ出来ているのが地域看護で訪問看護などをいいます。公衆衛生看護は公衆衛生を基に、環境や食の問題、感染症を中心にしています。

保健師の活動にも家庭訪問があるが、訪問看護師にも家庭訪問があります。その違いを私は良くデリバリーに例えるのですが、依頼を受けて訪問するのが訪問看護師。保健師は依頼があれば、自分たちで選択（アウトリーチ）を行い、有無を言わず訪問するという違いがあります。

そういった様々な看護の形に分かれる中の一つが公衆衛生看護です。公衆衛生看護は感

染症や公害、以前は環境や食品衛生、下水などを衛生でやっていたようです。今回のコロナのような場合は感染症の対策という事で、保健師が対応しています。

昔は結核などがあったが感染症自体が今は少なくなっているので、コロナの対応では、思い悩む保健師も多くいたと聞いています。

松本議長：

基本的な事です、保健師の地域における役割や必要性を教えてください。医療行為とかはどうなんですか？

角森副議長：

ベースは看護師なので、本来は医師の指示を受けて医療行為が出来ます。

退院時には自身が入院していた病院の指示を受けて地域に帰ってくるが、病院は自分の患者の課題しかわからない。退院後の方がそれぞれにどんなことで困っているのか、共通の課題が多ければそれは市にとって対応が必要な事ではないのか、などを調整するのが保健師の役割だと思っています。

今は、乳幼児が呼吸器をつけたまま自宅に帰って来ており、訪問看護師が自宅に訪問しご家族の支援もしているが、常に一緒にいてお子さんのお世話をしているご家族の方が、訪問した保健師よりも知識を持たれていることもあり、自信を失くしてしまったという話も聞きます。

そういう時には、その子が成長していく事実はあるのだし、ご家族がお仕事に復帰されるかもしれない。その時々のご家族のライフスタイルに合わせて、どんな準備が必要なのかを考えるのが保健師ではないかという話をしている。訪問看護師もおそらくその時々の問題には気づかれるだろうが、行政を動かすことは出来ない。それをするのが保健師かなと思う。

松本議長：

市町村には保健師を置かなければならないというような法律は無いのですか？

中村課長：

置かねばならないというものは無いが、公衆衛生や法律で定められている特定健診などがある為、保健師を置く方向で指示はされている。しかし、何人配置するかは自治体によって様々。保健師の業務も精神保健までみななければならないなど枠が広がってきている。

松本議長：

古賀は何名いらっしゃるんですか？

中村課長：

介護支援課、子育て支援課、予防健診課などに配置されており 10 名程度の保健師がいます。

角森副議長：

今、感染症の対応を要する状況になっているが、保健師の力の見せ所だと思っている。発症者が出ていない地域であっても、そのレベルでどう対応するのか、段階的に取り組んでいく音頭を取るのが行政の中の保健師かと思う。

松本議長：

副議長のお考えで結構ですが、今後の方向性として、保健師は増やしていった方がよいとお考えですか？

角森副議長：

私は、業務分担よりも地区分担をした方がよいと思う。もしくは、業務分担で訪問地域をローテーションしていくか。

福岡市は地区分担をしているが、地域のつどいにも参加しており、地域の現状を良く知っている。

平島委員：

お話を聞いていると、民生委員の仕事に近いような印象を受けました。

角森副議長：

そうですね。民生委員さんと一緒に関わりを持ったご家庭もありました。民生委員さんが支援の必要なご家庭に気づいて、繋いでくださることもあります。

松本議長：

今日のお話を聞いて、専門的な視点から見た「地域における保健師の役割」などをぜひ提言書に書いていただきたいと思います。

では、他になれば村山委員の発表にうつりたいと思います。村山委員委員お願いします。

村山委員：

はい。

（村山委員 活動発表）

松本議長：

ありがとうございました。30年にわたって家族ぐるみでコスモス文庫を継続してきた実績に感動しました。

皆さんから何かありましたらどうぞ。

角森副議長：

高校生になると読書の割合が減るというのは、そうだなあと感じました。国家試験対策をする中で、問題の意味を読み取れない生徒が多い。事例問題が多いが、それを読んで自分の知識の中からどれがその事例に当てはまるのかを、考える必要があるが難しい。小説なども最後まで読む気力がない、面倒くさいと言う。

自分も子育て時に、読み聞かせが大切と思って毎晩寝る前に3冊読み聞かせていたが、今思うと数に縛られていただけだったと感じる。今お子さんを育てている保護者はスタートラインに立っているところだと思う。音読や読み聞かせの本来の目的を伝えていただくと、小さな種がつながるのかなと思いました。

井浦委員：

お話を聞いている間、学校の子どもたちのことを振り返っていました。この間、職員宛に書いている学校通信の中に「読解力」という事を書いた。なぜかというと、学力向上調査というものがあり、その分析をすると、子どもたちの課題の中に、文章を読み取り切れていない、というより読んでいない。その結果、求められている間に対して途中までは答えられるが、最後まで答えが出せずマイナスになるという事に行きついた。

今の生活はメールやSNSなどの利用が増えているが、それらは単語単語で成立するので文章が必要なくなっている。家での会話もそうなっているのではないかと思う。

子どもたちが本を読んでいるのを聞いていたら、文章をどこで区切って良いのかわからない子が多い。低学年のうちに、声を出して本をしっかり読むことを学校で教えていかないといけないと思う。最初は沢山の本を声に出して読むところから、高学年になると冊数にとられずに、一冊を読み切る。という風に目標を変えている。

橋爪委員：

私は国語を専門にしていますが、最近考えていることがある。読んだつもりになって終わっているの、文章問題も分かったつもりで勘違いして回答してしまう。つもりではなく本当に読むためにはどうしたら良いのか。という事を考えて国語の学習をしているが、「問う」ことが大切なのではないかと最近思っている。

読める子は、頭の中で勝手に問題を作って答えを自分で出して、という事をやっているが、大半の子はそれが出来ていない。問うことを教えることが大切ではないかと思い、物語の授業では特に意識して学習している。

例えば、物語を読んで気になる事を付箋に書かせてから、改めて読ませる。質問を作って読むことによって、子どもたちに「読めた」という感覚を持たせたいと思ってやっている。

今までは、課題があり、こういう風に読んでいこう。というものだったが、自分で問いを作ることで一人ひとりが主体となる。問いがあると何を読むのか、どうやって読むのかといった方法も定まっていくので、子どもたちから「見えないものが見えた」というような声が上がった。なぜ？と考える時には何を、どの様な、という事も付随して考えると良いよ、という声掛けをしながら、問い方を教えることで読みが深まっていった。

文庫活動という事で言えば、大人も子ども混じって物語に対して質問を考える。その後に物語を読んで、みんなで読書座談会をやりと面白い活動になるのではないかなと思う。

松本議長：

読書の「量」から「質」への転換という所でしょうか。図書室に行くとか本を手取るきっかけという点では、量を目標にするのも良いとは思いますが、ただ、そこで終わらせないフォローを教師はしなければならないですね。

学校にも、地域文庫の方が読み聞かせでよく来ていただいています、その時は子どもたちも熱心に話を聞いています。面白い所では笑い、真剣な所では静まり返っている。そういうことが子どもたちの情操教育になっているのではないかと思います。

何がきっかけで子どもたちが読書に親しみを持つのか。地域文庫や学校での読み聞かせなど、地域や学校での取り組みは大きな流れとしては貴重だと思います。

地域文庫や幼児期の子どもたちへの読書に対する、市の支援はあるのでしょうか？

村上補佐：

ブックスタートという取り組みはしています。

中村課長：

3歳児健診などの時に、保護者に対し、メディア付けにならないようにパソコンを付けず、携帯を見せず本の読み聞かせをしましょうと啓発を兼ねてお話しています。

井浦委員：

大人が新聞すら取っていない。活字は携帯の中になんか変わってしまっている。

角森副議長：

図書館の配本は必ずしも何百冊もしなくてはいけなないのでしょうか？

村山委員：

少ないよりも多い方が選ぶ楽しみがあるし、本も入れ変わる。3～40年ぐらい前から配本

をしており、最初のころは図書館が選んだ本を文庫まで持って来てくれたみたいだが、今は自分たちで選んで自分たちで持って来ている。

松本議長：

図書館も学校支援を良くしてくれているので、助かっている。

村山委員：

子育てサロンについても文庫についても、笑顔のつどいで明らかにされていたように、地域の子どもたちの居場所・地域の人と関わる場所という点で大事だと思う。本は色々なところに貸し出しをしてあるので、文庫に来なくてもどこにでもある。しかし、文庫には長い間本を読んできた人がいるという所が良さ。子どもたちに適切な指導が出来るし、人数が少ないので、お家で読み聞かせができないお子さんがいれば文庫で行うことも可能です。

先ほどもお話がありましたが、学校では一つの話をもみんなで勉強する。文庫はその人が選んだ本を読み、その本を読んだことのある文庫の人たちと内容について話し合うことで、一層本に対する見識が高まり、本を好きになる事が期待できるのだと思う。

市内の様々な文庫で楽しい活動をされているが、それプラス、しっかり音読をさせて欲しいなと私は思っている。それと、ブックトークもしていただきたいなと思っている。そうしないと、興味関心は高まっても、難しい本を読み解く力が育たない。児童文学までたどり着くお子さんは少ないと思う。

松本議長：

学校教育に求められている読書活動の目的と、地域文庫に求められている目的は重なる部分もあるし違う部分もある。幼少期からのきっかけや大人との多角的な関わりは、地域ならではと思う。30年にわたる経験に基づいた提言書を作成していただければと思います。どうもありがとうございました。

それでは、次回発表者は丸井委員と橋爪委員ですね。どうぞよろしくお願いします。

引き続き、その他に行きたいと思います。委員の皆さんから連絡がありましたらどうぞ。

橋爪委員：

10月18日に市民健康スポーツの日をスポーツ協会主催で実施します。コロナ禍ですのでフィジカルディスタンスという事で体力測定などを行う予定です。また、ウォーキングサッカーという新しいサッカーの体験もあります。

平島委員：

お手元のチラシのご紹介です。11月1日に文化協会主催で～宮沢賢治と古賀の民謡の世界～をリーパスプラザで実施します。ぜひお越しください。県の補助事業ですが有料事業と

なります。よろしければご協力をお願いします。

レッツピアノは入場無料です。お子様からプロの方まで 3～40 名の方がピアノの演奏をされます。途中、会場内を換気するための時間を設けますので、長時間にわたる開催となりますがこちらもぜひお越しください。

松本議長：

私の方からは古賀西校区コミュニティだよりをお配りしています。あと、10月6日に市役所の市民ホールで中村哲さんの名誉市民賞の表彰式を行うという話を聞きました。私も中村さんを尊敬しておりますので参加したいと思っておりますが、皆さんもぜひご参集いただければと思います。

では、事務局からお願いします。

渡邊：

(各種研修会の中止について報告)

松本議長：

続きまして、人権カレンダーについてお願いします。

村上補佐：

人権カレンダーに笑顔のつどいを掲載するかという事を委員の皆さんに検討していただいておりますが、担当部局の方から、人権啓発イベント以外の掲載は中止にするとの連絡を受けました。学校の入学式・卒業式を含め掲載しないという事ですので、来期の笑顔のつどいの開催時期については、引き続き検討をしていただきたいと思います。

続けて報告とお知らせをさせていただきたいと思います。

(ピカピカ大作戦の報告、古賀を歩こうの実施案内、リーパスカレッジ事業案内)

中村課長：

(コロナを打つの実施案内)

松本議長：

リーパスカレッジは年間通しての参加でなくとも申し込みは可能ですか？

村上補佐：

もちろん可能です。

松本議長：

はい。それでは、青谷部長からご挨拶をお願いします。

青谷部長：

本日は角森副議長、村山委員の大変貴重な発表を聞かせていただきました。新たな気付きや見えてきた課題を、提言書としてまとめていただければ素晴らしいものが出来るのではないかと期待しております。今日はお忙しい中どうもありがとうございました。

松本議長：

では次回の会議日程を決めたいと思います。10月27日の週で決めたいと思いますので、都合の悪い日を挙手願います。

10月29日（木）に決定したいと思いますのでよろしくお願いします。

最後に、角森副議長からおわりの言葉をお願いします。

角森副議長：

毎回、皆さんのお話を聞くのを楽しみにしていますが、次回も丸井委員・橋爪委員の発表を楽しみにしています。それでは、皆さんお疲れ様でした。